



LAST SUPPER ラストサパー  
2007.4.14-6.3

デザインギャラリー初のファッション展として新居幸治のコレクションを展示した。ピノッキオからイメージされた12着の服にはそれぞれ着ることのできる椅子が添えられている。コンセプトである『最後の晩餐』の食卓風景を表現した12着の服は、「住む」「着る」「食べる」ことが、椅子によって切り離されることなく一体化されていた。一般公募により実際にこれらの服を身につけて美術館内を歩くパフォーマンスも行われた。(TR)



うめめ：ここは石川県の部屋  
梅佳代写真展  
2007.6.9-7.10

石川県出身で『うめめ』で脚光を浴びた梅佳代初の本格的な展覧会。テーマを石川県としたことで柳田村に住む梅の家族の写真が中心となり、地元の人たちも親近感を感じたようだった。ドローイングや、映像、音声など写真に留まらない多様な展示、またトークを交えた茶会や梅のアイデアで開催された中学生が父親を撮影するワークショップなどのイベントもあり、梅佳代のエッセンスがぎっしり詰まった展覧会で、取材も絶えなかった。(TR)

(TR=高橋律子、TY=立松由美子)

1. 2. 3. 4. 6. 7. 9. Photo: IKEDA Hiraku

5. Photo: YAMAMOTO Tadasu

10. Photo: YAMATO Yasuji

Courtesy: Kanazawa College of Art, Interior & Architectural Design

11. Photo: FUKUNAGA Kazuo

12. Bruno Munari 1968

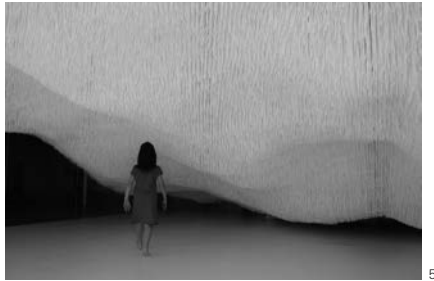
All rights reserved to Maurizio Corraini srl.

13. Photo: KIOKU Keizo



**Girlish Culture 〈リカちゃん〉**  
少女のあこがれ史40年  
2007.7.21-9.9

2007年に40周年を迎える「リカちゃん人形」を少女文化史、ガーリッシュ・カルチャーの視点から捉えた展覧会で、懐かしいリカちゃんから最新のものまで展示し、少女の憧れの具体化したリカちゃんとしての分析を行った。金沢21世紀美術館の監視ユニフォームを着たオリジナルリカちゃんなどが話題となった。また、本展をきっかけに2008年には西武百貨店を中心に「Girlish Culture リカちゃん展」が東京、神戸、札幌で開催された。(TR)



**Liminal Air-descent- 大巻伸嗣展**  
2007.11.3-2008.4.6

無数の白いロープが吊り下げられた空間は「精神と身体境界」を表しており、内部に入れば視界の全てが白で覆われロープの感触だけが感じられる。またガラス壁面を通して外から見れば、ロープの中へ消えていく人たちを客観的に見ることになる。インスタレーションとしての迫力のみならず、抽象的なコンセプトが体感として体に伝わり、これまでにない感覚を味わった。おとなだけでなく、子どもまでも夢になっていた姿が印象的であった。(TR)



**フードクリエイション：食欲のデザイン展**  
感覚であじわう感情のテイスト  
2008.7.19-9.28

石川県、そして金沢美術工芸大学出身の諏訪綾子が主催するフードクリエイション初となる展覧会。フードクリエイションが目指すのは、グルメでもなく、胃袋を満たすだけでもない、表現としての「食」である。会期中は27回におよぶフードクリエイションによるパフォーマンス、そして平日には出前サービスを行い、従来の展覧会にはなかった「あじわう展覧会」として革新的であった。新しい「食のデザイン」の展開を感じていただけたようだ。(TR)



**開館3周年記念：美術館・友の会共同事業**  
金沢の包み紙展  
2007.8.12-10.16

友の会との初の共同事業として有志5名にプロジェクトメンバーとして展覧会の内容にまで深く関わってもらった。地域の方々への呼びかけ、またプロジェクトメンバーが各店舗をまわるなど地道な収集を続け、今も使用されているものから懐かしい包み紙まで200点もの包み紙が集まった。そうした地域との連携だけでなく、最近では活躍の場が少なくなった「包み紙」をデザインから、そして貴重な文化として見直す意義のある展覧会となったといえる。(TR)



**金沢をプリコラーージュする。**  
糸崎公朗写真展  
2008.4.18-7.13

写真を立体的に組み立て3次元化するフォトモで知られる糸崎公朗が金沢に約2ヶ月滞在し、路上を歩き回り、独自の視点で金沢の街を切り取った。視点をつないでいく「ツギラマ」や、街に生息する小さな虫たちを壮大なスケールで撮影した「デジワイド」など多様な手法で表現される作品は、まさに視点・思考・テクノロジーの切り貼り「プリコラーージュ」である。これまで気づかれることのなかった金沢の魅力が引き出された展覧会であった。(TR)



**開館3周年記念：美術館・友の会共同事業**  
第2弾 金沢アートプラットフォーム2008  
インフォメーション・キューブ  
2008.10.4-12.7

友の会有志の方々と一緒に作り上げた「金沢アートプラットフォーム2008」の情報スペースである。来館者の目線でどんな情報が必要かを議論し自分たちが楽しめる情報を集めた。「おすすめコース」と「イベント情報」のパネル展示、プラットフォーム関連のDMコーナー、また会期中は、トークイベントや高橋匡太のワークショップ、またガラス壁面に出品作家に直接サインしていただくなど、ライブ感のある空間となった。(TR)



不自由な夢: 大森侑佑とマエダサチコ  
2008.12.13-2009.2.22

スタイリスト大森侑佑とキャンドルアーティスト、マエダサチコのコラボレーション。ベッド、人形、レース、ハイヒール、鳥、花、手袋、リボン・・・可愛いものがぎっしり詰まった真っ白な空間のテーマは「夢」。ただ、その夢はそこに留まることなく、不自由で不器用ながらもまた先に進んでいく。女の子が持つ世界観が凝縮され、夢のなかを漂っているようでいて次の夢の世界を探しあてていく、そうした力強さも与えてくれる展示であった。(TR)



愛についての100の物語  
川崎和男のPeace-Keeping Design  
2009.4.29-8.30

PKD(デザインによる平和維持活動)は、デザインディレクターであり医学博士である川崎和男が提唱する理想を具体的に目に見える形で提案し、デザインの力を最大限に活用するプロジェクトである。注射器を扱ったことがない人でも安全に接種できるワクチンのデザイン開発を含め、紛争地域や災害時の救援医療現場における解決困難な課題に対するアプローチによって、諸問題への最適解策を見だし、かつ実現に取り組むデザインの力を紹介した。(TY)



当房優子の色合わせの楽しみ  
Fun with color patchwork by Yuko Tobo  
2009.11.14-2010.1.11

当房優子の作る195点の布製バッグ、マフラー、ブローチのひとつひとつが展示空間の中で鮮やかな個性を放ち、わくわくする高揚感のある展示空間を創出した。バッグ、マフラー制作のワークショップでは、「あなたの色合わせ」をテーマに、何気ない普段使いの布が組み合わせによってさまざまな表情をみせてくれることを、楽しみながら体感するきっかけとした。教育普及事業との連携により、色とりどりの布で残った小さな布で、児童対象のブローチづくりも開催した。(TY)



金沢と環境デザイン:  
まちづくりと共に歩むデザイン  
2009.2.28-4.19

金沢のまちづくりとデザインの間を関係を考える機会として、環境デザインの専門家:田中寛志(ディスプレイデザイン)、坂本英之(都市・建築デザイン)、角谷修(インテリアデザイン)、鏑隆弘(庭園・ランドスケープデザイン)の4人のディレクターの協同で研究・制作された作品群やその考え方を展示した。来場者からも積極的に意見を書いていただいた。それらを参考に、今後の金沢のまちづくりの可能性やデザインの役割を検証していく予定である。(TR)



きりのなか  
—ブルーノ・ムナーリの絵本世界  
2009.9.12-11.3

本展では、絵本《きりのなかのサーカス》を創造の可能性に挑んだムナーリの代表作としてとらえ、彼自身が監修し制作した7枚のスクリーンに着目。このスクリーンをダイナミックに構成することにより、体感できる絵本世界を来場者が自由に回遊し、さまざまな知覚体験を通して、ムナーリの創造力の源に触れることのできる場となることを企画した。(TY)



ミナ ペルホネン  
The future from the past  
未来は過去から  
2010.1.16-5.30

デザイナー皆川明により1995年に設立されたブランド「ミナ ペルホネン」は時を経ても色あせない魅力をもち、身につけると気持ちは高揚する洋服を目指し活動を続けている。2点の対比するドレスを展示することにより、過去のデザインをアーカイブとして繰り返し復刻する一方で、絶え間なく新しいデザインを生み出していくミナ ペルホネンの未来と過去とのつながりを展観した。(TY)